

第 5 期（平成 2 6 年度）事業報告書

（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

1. 事業内容

(1) 研究助成事業

① 第23回（平成26年度）助成事業の概要

本年度の研究助成総額は、7,236 万円といたしました。

② 応募の状況

本年度の研究助成募集は、4 月 1 日より、財団のホームページでの公募を行いました。

6 月 30 日の締切日までに、164 件の応募がありました。

③ 選考結果

平成26年10月3日（金）、丸ビルコンファレンスにおいて選考委員会を開催し、慎重審議の結果、83件（助成金総額7,236万円）が、助成対象候補として選考されました。その後、11月5日（水）の第10回臨時理事会で、選考案どおり決定いたしました。

助成決定先の研究者および研究題目は次頁の表の通りです。

なお、財団設立以来、23 期間における助成の累計は 1,174 件、助成総額は 12 億 672 万円となっております。

番号	氏名	役職名	所属機関	研究課題名	助成金額
14-01	三木 康臣	准教授	北見工業大学	堆肥熱・太陽熱ハイブリッド熱源による戸建住宅の水蓄熱式床暖房・床涼房システムの開発研究	¥1,000,000
14-02	林 昌彦	教授	神戸大学	揮発性有機物（VOC）の完全除去を可能とする高吸着性能活性炭の創製と建材への応用	¥1,000,000
14-03	垂水 弘夫	教授	金沢工業大学	排湿外壁構造の期間排湿量把握のためのフィールド試験研究	¥1,600,000
14-04	酒井 雄也	助教	東京大学 生産技術研究所	凍害による多孔質建設材料の損傷機構の解明と積極的な抵抗性の付与	¥1,000,000
14-05	鈴木 修一	教授	京都大学	ヒートアイランド対策としての京町家における井水利用暖房	¥1,000,000
14-06	小幡谷 英一	准教授	筑波大学	圧密木材の圧縮弾性発現機構の解明と人に優しい家具への応用	¥960,000
14-07	村上 了	研究職員	北海道立総合研究機構	北海道産樹種の弾性定数の収集方法の確立	¥1,000,000
14-08	高橋 達	教授	東海大学	躯体一体型木質熱暖房システムの研究	¥1,568,000
14-09	植松 康	教授	東北大学	高齢化の進行する積雪寒冷地における空き家等木造老朽住宅の強風災害ポテンシャルに関する研究	¥1,440,000
14-10	小島 陽一	准教授	静岡大学	構造用木質パネル類の非破壊試験による熱劣化評価方法の確立	¥950,000
14-11	伊藤 一秀	准教授	九州大学	真菌増殖の3次元形態予測モデルを用いた浴室環境汚染評価手法の確立	¥1,000,000
14-12	茂里 康	総括研究主幹	産業技術総合研究所	マトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法（MALDI-MS）を用いた、シックハウスガスの迅速検出法の開発	¥1,200,000
14-13	濱田 靖弘	教授	北海道大学	人体生理状態予測による新安全リスク評価デバイスを導入した健康指向型スマートハウス	¥1,000,000
14-14	五十子 幸樹	教授	東北大学	建築物の長周期地震動対策に有効なセミアクティブ・ダンパーの開発	¥1,200,000
14-15	宇野 宏司	准教授	神戸市立工業高等専門学校	大阪湾圏域における福祉避難所の指定状況と南海トラフ巨大地震津波に対する課題抽出	¥1,500,000
14-16	森 太郎	准教授	北海道大学	札幌市の全建物の日射データベースの作成と分析	¥900,000
14-17	佐々木 康寿	教授	名古屋大学大学院	建築構造木材の強度耐久性発現機構の解明	¥1,000,000
14-18	Lim Eunsu	准教授	東洋大学	室内気流性状を考慮した汚染物質の濃度低減建材・空気調和装置による最適室内空気質制御法の開発	¥1,000,000
14-19	橋田 光	主任研究員	森林総合研究所	未利用資源である樹皮に含まれるフェノール樹脂硬化促進成分の解明	¥1,000,000
14-20	三田村 哲哉	准教授	兵庫県立大学	地中海沿岸国のアール・デコ建築に関する調査研究	¥1,600,000

14-21	前田 昌弘	助教	京都大学大学院	スリランカの旧紅茶プランテーション地域における労働者長屋の実態調査と再生モデルの提案	¥935,000
14-22	小山 裕	教授	東北大学	テラヘルツ波を用いた建材の欠陥診断	¥1,000,000
14-23	川瀬 博	教授	京都大学	超高層建物の耐震補強を目的とした制震工法の実証試験	¥1,200,000
14-24	青柳 由佳	講師	越原学園 名古屋女子大学	地域資源の利用と民家－奄美大島におけるシイの利用－	¥400,000
14-25	奥田 紫乃	准教授	同志社女子大学	歴史的建築物のエイジングと外観の好ましさに関する研究	¥1,000,000
14-26	田中 孝	助教	静岡大学大学院	木質系パネル材料の透湿現象のモデル化とシミュレーション用スプレッドシートの開発	¥570,000
14-27	西沢 啓子	副主任研究員	東京都立産業 技術研究センター	コインシデンス効果を生じる小試料音響透過損失測定 の精度向上に関する研究	¥800,000
14-28	花里 俊廣	教授	筑波大学	旧スイス公使館の活用方法に関する検討	¥1,200,000
14-29	北島 栄二	准教授	長崎大学	高齢者の階段昇降を支援する電動手すりの開発	¥1,000,000
14-30	伊藤 国徳	主任研究員	岐阜県生活技術 研究所	圧縮木材から放散するアルデヒド類の放散特性	¥750,000
14-31	佐伯 智寛	主幹	建材試験センター	自然光による開口部附属部材等の日射熱取得性能の 測定法の開発及び標準化のための調査	¥1,000,000
14-32	羽山 広文	教授	北海道大学 大学 院	特別養護老人ホームのエネルギー消費実態調査と建物 性能向上の効果把握	¥1,000,000
14-33	花里 利一	教授	三重大学	ドームを有する世界遺産組積造建造物における水平 構面剛性の耐震効果に関する実証的研究	¥1,200,000
14-34	白石 靖幸	教授	北九州市立大学	土壌熱交換による外気の冷却・加熱効果の評価手法 に関する研究	¥1,200,000
14-35	岡崎 泰男	准教授	秋田県立大学	実験モード解析による腐朽木材の振動特性の解明	¥850,000
14-36	横尾 昇剛	准教授	宇都宮大学	木造住宅の建設に関わるプロセス調査の実施とライフ サイクル CO2 原単位データの作成	¥1,000,000
14-37	中村 仁	教授	芝浦工業大学	住環境向上と景観形成に資する防火・耐震化改修技術 の規格化に関する研究	¥1,200,000
14-38	富永 禎秀	教授	新潟工科大学	建物内外気流のCFD解析における乱流拡散濃度フラ ックスの高精度モデル化手法の再評価と一般化	¥1,080,000
14-39	藤田 香織	准教授	東京大学大学院	木造戸建住宅の津波被害と改修手法に関する研究	¥1,600,000
14-40	前島 彩子	講師	明海大学	アルミ住宅の更新手法に関する研究	¥675,000
14-41	高取 愛子	講師	京都大学	配光・照明器具システムの技術開発に基づく、建築意 匠における照明計画の新たな展開--LED 照明を発光 原理から捉え直したセントラル・ライティングの可能性	¥1,600,000

番号	氏名	役職名	所属機関	研究課題名	助成金額
14-42	小原 聡司	教授	独立行政法人 国立高等専門学校 機構 都城工業高 等専門学校	南九州の住宅のエネルギー消費に影響を与える設備 機器の使い方等の実態調査	¥1,200,000
14-43	小澤 丈夫	准教授	北海道大学	縮減時代の北方圏における持続可能な地域景観づく りのための基礎的調査	¥990,000
14-44	山下 哲郎	教授	工学院大学	優れた意匠性と透光性を有する鉄骨格子耐震壁の耐 震性能評価実験	¥1,200,000
14-45	安井 妙子	主幹研究員	阿部和建築文化研 究所	仙台市原町本通りまちなみ博物館構想－2	¥800,000
14-46	中村 昇	教授	秋田県立大学	一般流通材を用いた大スパン梁の開発	¥590,000
14-47	崔 琥	助教	東京大学 生産技術研究所	非構造部材を含むRC造中高層マンションの地震被災 度判定手法に関する実用化研究	¥1,600,000
14-48	陶器 浩一	教授	滋賀県立大学	竹材の材料特性の解明および実竹構造物の経年によ る特性変化の検証	¥1,600,000
14-49	吉野 博	総長特命教授	東北大学	大規模住宅に対応した断熱改修スキームの構築とそ の検証	¥1,700,000
14-50	有田 誠	助教	九州大学	住宅用ソーラーパネル表面への 防眩性と防汚性を備 えた反射防止型光触媒コーティング技術の開発	¥900,000
14-51	井上 雅文	准教授	東京大学	建築分野における経済効果と環境貢献の同時評価	¥1,000,000
14-52	瀧野 敦夫	講師	奈良女子大学	伝統構法木造住宅における耐震要素に及ぼす柱の傾 斜の影響	¥1,140,000
14-53	渡辺 麻衣子	室長	国立医薬品食品 衛生研究所	東日本大震災応急仮設住宅室内を汚染する真菌危害 の低減および予防に関する研究	¥2,000,000
14-54	三田村 輝章	准教授	前橋工科大学	版築壁の新たな建築利用の提案とその実証	¥500,000
14-55	中川 武	教授	早稲田大学	ベトナム・フエの伝統的上流住宅の解体部材修理と 保存修理計画の策定	¥1,000,000
14-56	栗山 恵都子	専任講師	静岡英和学院大学 短大部	生活者の清掃行為における調理台周囲の汚れ除去に ついて	¥375,000
14-57	高木 理恵	助教	秋田県立大学	寒冷・積雪・風雪地域の戸建住宅における換気障害 と室内空気環境の実態解明	¥1,440,000
14-58	中尾 方人	特別研究教員	横浜国立大学	耐久性の高いモルタル外壁による耐震補強効果の検 証	¥750,000
14-59	門内 輝行	教授	京都大学	コミュニティ・ガバナンスに基づく空き家の再生に よる景観まちづくりの実践	¥1,200,000
14-60	内海 康雄	副校長	仙台高等専門学校	建物の熱的性能及び室内環境にかかる国際標準化の 動向調査	¥900,000

調査研究助成合計 ¥65,063,000

若手	名前	役職名	所属機関	研究課題	金額
14-61	鈴木 祐麻	助教	山口大学	鉄スクラップを還元剤として用いた動電型反応性バリアシステムによる六価クロム汚染土壌の原位置処理	¥300,000
14-62	寺本 篤史	助教	広島大学	画像解析による打放しコンクリートの美観評価に関する研究	¥300,000
14-63	石原 沙織	助教	千葉工業大学	伝統的屋根工法の防雨メカニズム	¥400,000
14-64	位田 達哉	講師	第一工業大学	火山灰を用いた調湿および気相有害物質の濃度低減機能を有する内装用吹付建材の開発	¥300,000
14-65	萬羽 郁子	助教	近畿大学	室内環境のモニタリングが居住者の行動および居住性に及ぼす影響の検討	¥300,000
14-66	釜床 美也子	助教	香川大学	四国の茅葺きにおける茅の利用技術の記録・継承による現代的な草本資源利用の仕組みの構築	¥500,000
14-67	永縄 勇人	技師	あいち産業科学技術総合センター	未利用原料を用いた新規不焼成建築材料の開発と機能性の発現	¥300,000
14-68	片岡 沙都紀	助教	神戸大学	鉄鋼スラグを用いた環境に優しく耐震性に優れた補強土壁工の実用化に関する基礎研究	¥300,000
14-69	山ギシ 崇之	特任助教	秋田県立大学	放射性元素吸着剤の開発を目標とした半炭化物中の官能基の観察及び金属吸着性能の検討	¥300,000
14-70	小堀 光	助教	静岡大学	可視・近赤外分光イメージングによる木質廃材の判別およびこれを利用した木質ボードの評価	¥300,000
14-71	中西 大輔	共同研究員	京都府立大学	江戸時代の上賀茂社家町における瓦葺きの普及と、上賀茂神社出入りの瓦師との関係に関する史的 research	¥300,000
14-72	北山 めぐみ	助教	高知工業高等専門学校	四万十川流域の文化的景観における集落空間と社会基盤整備の関連性に関する研究	¥300,000
14-73	中川 瑠美	助教	奈良女子大学	水廻り床の素足のすべり測定に用いるすべり片の再検討	¥300,000
14-74	五十嵐 豪	助教	東北大学	拡張 BET 理論による高炉スラグ微粉末を用いたセメントペーストの水蒸気吸着性状に及ぼす塩化物イオンの影響評価	¥300,000
14-75	塚越 雅幸	助教	徳島大学	ポリマーセメント系仕上塗材の近赤外分光法を用いた非破壊性能検査手法の提案	¥300,000
14-76	渡邊 史郎	補手	東京理科大学	神楽坂における既存木造建築物の更新実態と改修技術の可能性に関する研究	¥392,000

若手研究助成（若手研究者）合計 ¥5,192,000

学生	名前	役職名	所属機関	研究課題	金額
14-77	小川 敬多	博士後期課程	名古屋大学大学院	伝統的木造接合部の力学性能に及ぼす木材の横圧縮挙動	¥300,000
14-78	松田 拓未	博士後期課程 1年	名古屋市立大学	有機無機ペロブスカイト太陽電池開発に向けた新機能性材料の研究	¥300,000
14-79	中嶋 麻起子	博士後期課程	京都大学大学院	建物外壁における藻類の生育状況に関する研究	¥300,000
14-80	李 雪	博士後期課程	筑波大学	中国貴州省における少数民族の伝統的木造民家の建設に関する研究 一黔东南ミャオ族トン族自治州従江県を例として一	¥300,000
14-81	山口 晃平	博士課程2年	明治大学大学院	廃塩化ビニル防水シートにおける経年劣化影響およびリサイクル手法に関する研究	¥300,000
14-82	今川 健一	博士後期課程2年	明治大学	促進環境条件の相違がフライアッシュコンクリートの中性化進行に及ぼす影響	¥300,000
14-83	加來 千紘	博士後期課程	早稲田大学大学院	火災加熱を受ける木質部材の力学的性能予測に関する研究	¥300,000

若手研究助成（学生）合計 ¥2,100,000

第23回（平成26年度）研究助成総合計 83件 ¥72,355,000

(2) 自主研究事業

[1] 第四回 LIXIL 国際大学建築コンペ

(共催 株式会社 LIXIL (総合研究所)、北海道大樹町)

寒冷地の過酷な気象条件かつ、インフラ基盤の弱い北海道大樹町の地域特性を活用して、世界の最先端の技術を導入、また北の大地特有の冬の雪、春から夏にかけての樹木、農作物の壮大な景観とマッチするサステナブル建築の提案をテーマに世界の有力大学の学生による設計コンペティションを実施し、4月25日開催公開審査会にてカルフォルニア大学バークレー校「NEST WE GROW」が最優秀作品に決定された。「MEMEドゥズ」に実際に実験住宅として建設され11月22日に現地にて竣工式を行った。今後は実験データの技術的な有効性を検証し、社会に情報を発信する。

[審査委員]

隈 研吾 (委員長、東京大学 教授)、野城 智也 (審査員、東京大学副学長)、
進士 五十八 (審査員、造園家・農学博士)、小山 薫堂 (審査員、放送作家、脚本家)
(参加大学)

オーストラリア建築デザイン大学(オーストラリア) デルト工科大学(オランダ) ミラノ工科大学(イタリア)
ハーヴァード大学(ドイツ) ユタ大学(アメリカ) カルフォルニア大学バークレー校(アメリカ) 同濟大学(中国)
シンガポール国立大学(シンガポール) ハンドン工科大学(インドネシア) 東京大学(日本)
東京農業大学(日本) 北海道大学(日本)

[2] 健康のための住宅環境研究 (継続事業)

(共催 北海道大樹町、株式会社 LIXIL 帯広営業所)

寒冷な冬季環境下にある大樹町を対象として、脱衣所および浴室のヒートショックを改善することにより安心安全な入浴を可能とし、健康な住生活の実現を目指す。また、環境変化前後の比較により、断熱改修・最新式ユニットバス導入などのヒートショック改善が及ぼす影響の定量的評価の可能性を明確にする。

[実施事項]

- ・ 浴室・脱衣所を、最極寒冷期 12 月～1 月にリフォーム。その前後で下記内容に基づくビフォア・アフター評価を実施。
 - (i) 浴室・脱衣所を含む住宅全体のヒートショック温熱・湿度環境の課題分析
 - (ii) 居住者の快適性向上を目的とした、浴室・脱衣所の断熱、気密、換気の改修設計、最新式ユニットバスの導入検討および工事
 - (iii) リフォーム前後の浴室脱衣所の環境変化計測、血圧変動データの収集。
 - (iv) 住宅内外・浴室周辺の高湿度対策の実施、計測と分析。
 - (v) 居住者の居室～入浴～居室までの一連の入浴動作における、不快感、身体負担に関する主観アンケートの収集。(季節ごと、リフォーム前後の定点観測)

[成果]

活動の中で、居室から脱衣・入浴時の温度差が大きく（ヒートショック）、入浴時に激しい血圧変動を引き起こし、結果、身体に大きな負担がかかっていることがわかった。

住宅全体および脱衣所・浴室の温度計測から、温度弱部に断熱リフォーム改修を実施、足裏が冷えにくい機能をもった新型浴室の導入などを行うことで、居住者が入浴する時の血圧変動を小さくすることが検証出来た。

また、高湿度を抑える換気・通気設計・改修を行い、躯体を損傷させるリスクを抑制した。

5月京都大学にて報告会の開催予定。（2015年3月まで計測、4月に結果を取りまとめ）

[今後]

2016年度、大樹町の高齢者施設を対象に活動を行う。

安心安全な入浴が可能な浴室周りの温湿度環境を維持しつつ、大量のエネルギーを使用する給湯設備の省エネ化の実現。

[3] バングラディッシュ 竹構造の家（継続事業）

（委員長：長岡造形大学 山下 秀之教授）

バングラディッシュは北海道の約2倍の面積に15倍の人口密度と人口密集地帯であり、今も人口は増加傾向にある、また洪水や暴風が多くデルタ地帯では10年に1度の洪水では国土の70%が沈む国である。そこでバングラディッシュ特産の竹を主体構造とする複数階住宅を建設することによって、人口増加による農地の宅地化をとめ、3年で生育する竹を利用して環境負荷を低減することを研究目的として「MEMEDOUZ」に洪水や暴風に強いボラック竹（世界最強の竹、南米産グアドゥアに匹敵、3年で成木）による2階建ての高床式実験住宅を建設した。

今後は強度、居住性等の実験を行いながら実用に向けた研究を進めて行くと同時に日本国内の建材にもその研究成果を適応し、竹の特性である曲げ強度が高い性能を取り入れ、耐震性住宅及び建材を研究する。

[4] 害虫研究会

（委員長：酪農学園大学 佐々木教授）

住生活を阻害する害虫（蚊、ハエ、カメムシ、虻）の対策は、網戸がメインで40年来変わっていない。低炭素住宅にとり、通風が大きなテーマとなっているが、窓を開ける際の現在の網戸は通風量が下がってしまう。そこで、網戸の種類・構造の新しい形等をめざし、協働研究を推進する。

[実施事項]

住宅害虫の生態調査(4年間)

虻、カメムシ、蚊、ハエ等住宅で嫌われる各昆虫の生態権威である、北海道酪農学園大学 佐々木均教授ご指導による、新種網を用いたトラップ・網戸によるフィールド実験

① 生態調査に基づいた新構造網の開発(1年)

② 生態状況調査

・虻

メムドウズ内 馬パドック・宿泊施設周りに新材質網を使用したトラップを設置し、虻を捕捉することにより、馬・人への害を減らす。

・カメムシ

秋に床下換気口・窓の隙間より建屋に進入(暖かい家に入る)

昔は、家が寒くて冬眠したが、リフォームで暖かくなり冬でも活動するようになった。

9月末～11月にかけて、床下換気口・窓外部全体に新材質網を貼り進入防止する。これにより住宅のどの部分に侵入防止を図ればよいか明確にする。

[5] 鎌倉地域における高齢者住宅研究会

(委員長： 横浜国立大学 大原一興教授)

高度経済成長期に大都市周辺の高台丘陵地に開発された住宅団地は、少子高齢化が進み周辺から隔絶する傾向にあり、空き家も増加し高齢化率 50% になろうとする地区も存在する。これら「限界団地」化によって、まちの機能低下や住民生活への影響（地域活力の低下、日常購買施設の撤退、福祉需要増大、将来不安 etc.）が危惧されている。本研究は、具体的な地域を主たるフィールドとした社会実験を行い、超高齢化による住宅・住環境の課題の整理、既存の地域資本（空き家等）を最大限に活用する方法の提示、超高齢社会に対応した社会システムと新たなライフデザインを高齢者自ら作り上げるためのまちづくりモデルを構築する。

研究期間 3年間

平成 25 年度 空き店舗拠点施設コミュニティカフェの試行、空き家活用マッチングシステムの構築（空き家情報と診断）、地域情報・意向の収集

平成 26 年度 拠点施設運営の効果測定と評価、空き家活用システムの模索、地域将来像のデザイン、空き家・空き店舗における活動の試行

平成 27 年度 空き家改修分散型サービス付き高齢者住宅等、地域運営システムの試行と全体評価、地域通貨等による相互協力のシステム化

[実施事項・成果]

平成 26 年度には、前年から実施してきた空き家悉皆調査により、町内に 2 軒の提供可能な所有者を探し出し、これらを地域住民の高齢化に対応した介護拠点施設への改修と、これまでのワークショップなどから提案されたコミュニティ利用スペースとしての利用と、ふたつの具体的な計画・設計を市や事業者など多方面と調整し進めた。

年度末までに、そのうち 1 軒の具体的な運営まで含めた計画と見積もりが完成し、次年度に施工の運びとなった。完成後の活用の実際の運営のための町内住民主体による、NPO 設立の準備を進めた。

このほか、独居高齢者などの見守りをサポートするホームシェアなどの具体的条件づくり、コミュニティ拠点から派生した様々な活動に関する質的評価・地域人材資源としての住民の活力測定や空き家資源の転用などを調査し、具体的に定量的把握を行った。

[今後]

空き家転用を具体的に施工実施・運用しその評価を行うとともに、それに続く実例づ

くり、ホームシェアの実現化、空き家活用の複数の福祉拠点化により分散型地域ケアシステム（住宅改修や地域人材活用・相互協力システムなどを含む）のモデル構築へと展開させる。

[6] 環境技術環境機構「メムメドウズ」の運営

実験住宅「メーム」及びスマートリフォーム住宅を東京大学生産技術研究所による耐震、断熱等の実験検証を進めると同時に環境を含む住生活の研究を目的として国際学生建築コンペの最優秀作品の建設と検証実験を行い、住生活を取りまく多様な実験施設として運用を図って行く。

(施設概要)

1. 実験住宅「メーム」「竹の家」「町まとう家」「Barn House」「Horizon House」
2. スマートリフォーム住宅
事務棟、コンファレンスセンター（宿泊施設）、住宅1号棟、住宅3号棟、管理棟、ログハウス1号棟、ログハウス2号棟、多目的施設、運動施設、レストラン棟、果樹園

2. 理事会・評議員会

(1) 第9回 通常理事会

日時：平成26年5月16日

開催場所：書面決議

決議事項：第1号議案 第4期（平成25年度）事業報告書の承認
第2号議案 第4期（平成25年度）財務諸表等の承認
第3号議案 評議員会の開催の承認を求める件
第4号議案 基本財産の株式に関する議決権行使の承認を求める件

出席等：提案書に対し、理事8名全員の書面による同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。

(2) 第5回 定時評議員会

日時：平成26年5月23日

開催場所：東京會館アイボリールーム

決議事項：第1号議案 第4期（平成25年度）事業報告書承認の件
第2号議案 第4期（平成25年度）財務諸表等承認の件
第3号議案 理事選任の承認を求める件
第4号議案 監事選任の承認を求める件
第5号議案 評議委員選任の承認を求める件

出席等：決議に加わることの出来る評議員8名中7名が出席し議案に対して、全員一致をもって承認可決された。

(3) 第8回 臨時理事会

日時：平成26年5月23日

開催方法：東京會館アイボリールーム

決議事項：第1号議案 代表理事選任の承認を求める件

出席等：決議に加わることの出来る理事9名全員が出席し議案に対して、全員一致をもって承認可決された。

(4) 第9回 臨時理事会

日時：平成26年7月24日

開催場所：書面決議

決議事項：第1号議案 平成26年度助成先及び助成金額について承認を求める件

出席等：提案書に対し、理事9名全員の書面による同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。

(5) 第10回 臨時理事会

日時：平成26年11月5日

開催場所：書面決議

決議事項：第1号議案 平成26年度助成先及び助成金額の承認を求める件

出席者：提案書に対し、理事9名全員の書面による同意の意思表示により、
理事会の決議があったとみなされた。

(6) 第10回 通常理事会

日時：平成27年3月13日

開催場所：書面決議

決議事項：第1号議案 平成27年度事業計画の承認を求める件

第2号議案 平成27年度正味財産増減予算の承認を求める件

第3号議案 資金調達及び設備投資の見込みについて承認を求める件

第4号議案 事務局長就任の承認を求める件

出席等：提案書に対し、理事9名全員の書面による同意の意思表示により、
理事会の決議があったとみなされた。